

(4) 様式 4_助成事業実施報告書

2017年 4月20日

助成事業実施報告書

団体名 在宅ホスピスケア・ボランティアさくら

代表者・役職名 氏名 岡田美佐子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

がんカフェたま

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

ボランティアさくらの傾聴活動から、がん患者とそのご家族の不安や孤立を感じ、共有の思いを語り合うことの有意義に共鳴した、多摩ホスピス・NPOフューンベリ(乳がん患者会)と共催で、2014年4月から開催して30回になりました。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

がん治療の進歩と多様な情報により、患者と家族の選択肢は増加しています。病院の医療関係の多忙な様子に十分な説明や理解を得られず、不安を抱えている患者やご家族などの共有の思いを語り合う場を提供する。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

毎月1回、定時に行うことで、予約なしで当日参加が多数来られます。毎回、医療関係者が同席して質問や相談に応じます。患者同士や介護者同士で語り合うことで変らさず、医療者の今後の医療の参考となる場でもあります。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

年10回の開催。患者の体調の負担を考慮して1月・8月は休止しています。毎回、参加人数が予想で多い状況での開催です。今年度はのべ45名電話問い合わせ21件、病状が進む中でも参加される方々の拠り所になりました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

課題:男性患者が参加が少数である。ご遺族の対応(ケリ・フケア)がんの症状の多様性に対応出来るように、今後も医療関係者にご支援を仰ぐ。医師のミニレクチャーの実施する予定。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし